

# 特 殊 報

岡病防第 28 号

平成25年 1月11日

各関係機関長 殿

岡山県病虫害防除所長

## 病虫害発生予察情報について

病虫害発生予察特殊報第5号を下記のとおり発表したの送付します。

### 平成24年度病虫害発生予察特殊報第5号

平成25年 1月11日

岡 山 県

- 1 病虫害名：モモ果実赤点病（かじつせきてんびょう）
- 2 病原菌名：*Ellisembia* sp.
- 3 作物名：モモ（品種 川中島白桃）
- 4 発生面積：10a
- 5 特殊報の内容：岡山県での初発生を確認
- 6 初発生確認月日：平成24年 8月 8日
- 7 初発生場所：岡山県南部
- 8 発生の経緯：平成24年 8月に岡山県南部の露地栽培モモにおいて、果実表面に赤色の小斑点が現れる症状が確認され、本症状のモモ果実を独立行政法人農業・食品産業技術研究機構果樹研究所に診断依頼したところ、果実赤点病であることが確認された。  
果実赤点病は国内では平成20年 6月に福島県で初めて確認され、現在、和歌山県でも発生が報告されている。
- 9 病徴：成熟期～収穫間近に果実表面に赤色の斑点が生じる（図1）。本病の症状はウメシロカイガラムシの被害に類似しているが、吸汁痕がないので識別できる（図3）。
- 10 病原菌及び発生生態について：糸状菌の一種で、分生子柄は暗褐色で真直～やや屈曲して隔壁を有し、頂部に出芽型分生子を単生させる。分生子は褐色、多細胞で3～4個の擬隔壁を有する（図2）。伝染源はモモの越冬枝病斑に形成された分生子で、分生子は6月上旬～9月上旬に飛散し、飛散は降雨後に多い傾向があり、果実への感染は梅雨時期に多いとされる（図4）。
- 11 防除対策および参考事項：
  - （1）袋かけ時期が遅いほど発生が多くなるので、早期の袋かけに努める。
  - （2）園内の通風をはかり、多湿にならないように努める。
  - （3）剪定枝は放置せず、埋設するなど適切に処分する。
  - （4）登録薬剤は表1のとおりである。

表1 モモ果実赤点病適用の主な防除薬剤（平成25年1月現在）

薬剤名	希釈倍数	使用時期	使用回数
ジマンダイセン水和剤	600倍	収穫21日前まで	3回以内
ダコレート水和剤	1,000倍	収穫3日前まで	3回以内
ベルコート水和剤	1,000～2,000倍	収穫前日まで	3回以内(休眠期は1回以内)
ナリアWDG	2,000倍	収穫前日まで	2回以内



図1 モモ果実赤点病の果実



図2 モモ果実赤点病菌（分生子）



図3 ウメシロカイガラムシによる類似症状  
（赤点中心部に吸汁痕や白い虫体が見える）

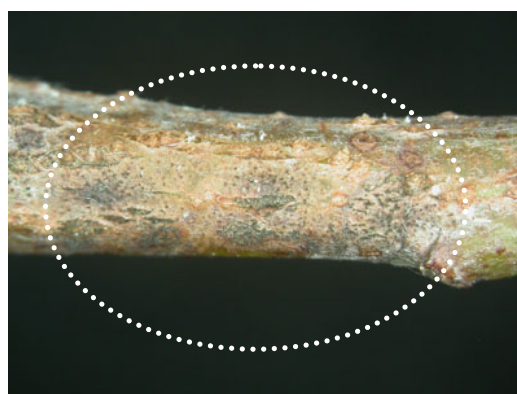


図4 モモ果実赤点病の枝病斑（1年生枝）  
（写真提供 農研機構果樹研究所）

この情報は、岡山県病害虫防除所ホームページでも公開しています。

アドレスは、[http://www.pref.okayama.jp/soshiki/kakuka.html?sec\\_sec1=239](http://www.pref.okayama.jp/soshiki/kakuka.html?sec_sec1=239)